



とびっきりの夏の思い出を

校長 手代木 英明

夏休みの予定がぎっしり詰まった「夏休み号」をお届けします。2～3ページには、いろいろなコンクールのお知らせがあります。「学年便り」には、それぞれの学年で取り組む課題が出ています。ぜひ、チャレンジさせてください。そして、今年も夏休みの自由研究(2～6年)に対して「校長賞」の選定をします。先日、6年生が校長室に来て「校長賞の基準は何ですか？」と質問がありました。校長賞に興味をもっている子がいることは、とても嬉しいことです。

【校長賞選定基準】

- ①研究の動機がはっきりしている。(不思議に思ったことや興味をもったことが書かれている。)
- ②これまでの経験や本で調べたことを基にして、予想や仮説が立てられている。
- ③実際に観察したり、実験したり、調査したりしている。
- ④結果だけでなく、結果について考えたことが書いてある。

という基準で、選んでいます。自分らしさが出ている研究が価値ある研究です。気になっていることや不思議に思っていることに視点を当てて、じっくりと考えて、観察や実験や調査ができるとういのですね。もちろん、旅行記、郷土や旅先の歴史調べもOKです。



この写真は、磐越西線塩川駅を発車した「ばんえつ物語」(C57)です。昨年のお盆に帰省したときに偶然撮影したものです。ファイダー越しに蒸気機関車を見たときに小学校のときの自由研究を思い出しました。その時もこの場所で、蒸気機関車の写真を撮りました。機関士のおじさんが思いっきり警笛を鳴らしてくれたので、びっくりしたのを覚えています。その研究は、「蒸気機関車が走る音の聞こえ方と天気」というテーマでした。

会津の田舎の家で寝ようとしたときに、普段は聞こえない磐越西線を走る蒸気機関車の音が聞こえてびっくりしたのが、研究のきっかけでした。調べてみると磐越西線は家の東側を走っているのので、東風のときに蒸気機関車の音が聞こえることが分かりました。また、会津盆地は、天気のよい日は西風が吹いていますが、天気の悪い日と天気が崩れる前には東風が吹くことが多いことが分かりました。つまり、天気が悪い日に蒸気機関車の音が聞こえるということです。

子供たちの身の回りには、大人では見逃してしまうような不思議な出来事がたくさんあります。子供の「どうして、〇〇なの?」「なぜ、△△なの?」という問いかけに、すぐに答えないで「自分で、調べてごらん。」と言って、調べ方のヒントを与えて、取り組ませてみるとよいでしょう。きっと、思い出に残る、夏の思い出・自由研究になるはずですよ。

図書館に行こう！（職員室前の読書コーナー）

7月4日(土)の土曜授業(国際交流会)で職員室前にあるテーマ展示「図書館に行こう!」をご覧になった方も多いと思います。そのときは、国際交流会にちなんで、国旗や世界の情報が分かる本の展示がしてありました。今回は、「自由研究」です。子供たちは、とてもよく見ています。この展示は、図書館専門員の柳生先生と図書担当の藤井先生がつくっています。次は、どんな展示になるのか?お楽しみに。

